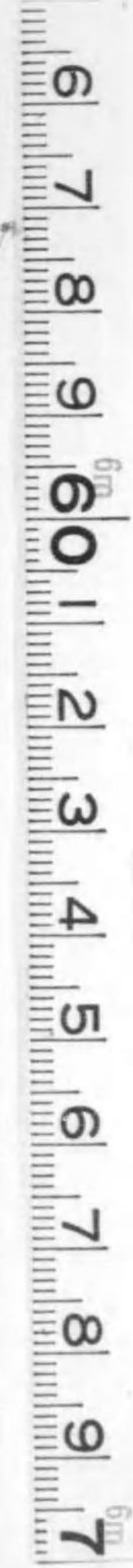


327

678

假名遣及送假名法便覽



始





327-678

明治書院編輯部

假名遣及送假名法優覽

東京

株式會社明治書院藏版



考 備	オ		エ		イ	
	を	お	へ	ゑ	ひ	い
考 備	ウ		ジ		オ	
	わ	は	じ	ぢ	ほ	ふ
考 備	ズ		ヂ		ウ	
	ず	ぢ	づ	ぢ	ふ	を
考 備	ワ		ヅ		ウ	
	わ	は	づ	ぢ	ふ	を

【あ】あぢさゐ(紫陽花) あゐ(藍) くれなゐ(紅) うなゐ(髻髪) かつたゐ(乞食) くらゐ(位) くわゐ(慈姑) なるゐ(地震) ひきゐる(率) まゐる(參) もちゐる(用) 【以上名詞】

【い】あさい(朝寝) かい(權) さいづち(小槌) おい(老) くい(悔) むい(報) 【以上動詞】 (附) さいはひ(幸) さいて(咲) さいて(指) 等々音便に注意すべし

【え】こゑ(聲) すゑ(末) ずゑ(櫛) すゑ(陶) ちゑ(智恵) つゑ(机) つゑ(杖) ゆゑ(故) ゆゑ(所以) 【以上名詞】 うゑ(飢) うゑ(植) すゑ(据) いしすゑ(礎) 【以上動詞】

【お】おは(おは) おは(おは) おは(おは) 【以上動詞】

【か】かゝ(か) かゝ(か) かゝ(か) 【以上動詞】

【さ】さゝ(さ) さゝ(さ) さゝ(さ) 【以上動詞】

【た】たゝ(た) たゝ(た) たゝ(た) 【以上動詞】

【な】なゝ(な) なゝ(な) なゝ(な) 【以上動詞】

【は】はゝ(は) はゝ(は) はゝ(は) 【以上動詞】

【を】を(を) を(を) を(を) 【以上動詞】

【あ】あぢろ(網) あぢろ(主人) ちぢ(虫) うなぢ(項) かぢか(歎) かぢ(蟻) きぢ(雉) ぐぢ(籠) さぢ(匙) しぢ(蜆) とぢ(辻) つぢ(躑躅) つぢ(麩) とぢ(刀自) なぢ(刷染) なまぢ(怒) にぢ(虹) はぢ(楮) はぢ(藪) はぢ(藍) はぢ(初) ひぢ(鹿尾菜) ひぢ(聖) ひぢ(羊) ほぢ(肺) まぢ(禁厭) まぢ(毗) まぢ(籠) やぢ(籠) むぢ(貉) むらぢ(連) 【以上名詞の類】

【い】いぢ(著) かたぢ(柎) けぢ(忝) ぐぢ(挫) ぐぢ(扶) たぢ(辟易) ぢ(み) ぢ(身退) まぢ(目退) なぢ(詰) にぢ(疎) はぢ(彈) まぢ(交) まぢ(雜) みぢ(甚) おなぢ(同) 等形容詞の語尾 【以上動詞・形容詞】

【え】えぢ(數珠) 【以上名詞】 ず(助動詞) ず(誦) 【以上動詞の類】

【お】おぢ(數) かならず(必) きず(疵) ぐず(葛) ねず(鼠) はず(筈) はず(機勢) みみず(蚯蚓) もず(百舌鳥) 【以上名詞の類】

【た】たぢ(竹) はず(華) 【以上動詞】

【な】なぢ(泡) みなわ(水沫) いわし(鱗) うらわ(浦回) くらわ(轡) くるわ(郭) ことわざ(諺) ことわり(理) ことわる(断) さわやか(爽) しわ(皺) たわやか(嬋妍) たわやめ(手弱女) たわ(俵) はにわ(植輪) はらわた(腸) ひわ(鰻) 【以上名詞】

【は】あわたたし(倉皇) あわつ(周章) いわけなし(幼弱) かわく(乾渴) さわぐ(騒) しわ(撓) すわる(坐) たわいなし(無辨別) たわむ(撓) よわし(弱) 【以上動詞・形容詞】

【を】わ(を) わ(を) わ(を) 【以上動詞】

【を】を(を) を(を) を(を) 【以上動詞】

一、本表は紛れ易き國語假名遣の中、少數の語を掲げて之を記憶し、他を類推せしむることせり。
二、本表には成るべく重複を避け、既出の語は他の部に關係あるも之を再記せず。即ちくわ(慈姑)はイの部に掲げてワの部に掲げず。うゑ(植)はエの部に掲げてうゑ(植)はウの部に掲げざるが如き是なり。故に一を知悉して他を類推すべし。
三、熟語は之を構成せる各単語の假名遣によりて之を記憶すべし。即ち、しわざ(仕業)のわざ(野分)つじぐるま(辻車)の如き是なり。四、語原を同じくする語は成るべく之を其の語の下に収めたり。即ち、るの部に、かゝる(鴨居)しきる(數居)等を加へたるが如き是なり。五、語彙の排列は大略體言用言に區別し、更に五十音順に次第せり。而して語彙收拾の範圍は一般の需要に適する程度に止めたり。

送假名法一覽表

◎總則

- 一 活用なき語は假名を送らず。
- 二 活用ある語は變化する所より假名を送る。
- 三 活用なき語と雖も、慣用と便宜とに従ひて假名を送ることあり。
- 四 活用ある語と雖も、稀には慣用と便宜とに従ひ假名を送らざることあり。

◎名詞

- 一 本來の名詞には總べて假名を送らず。
- 【例】日・月・雪・花・山・川等。
- 二 轉來の名詞には假名を送らず。

【例】霞・嘆・恥・辛・鮫・哀等。

●誤讀を生ずるものは假名を送る。
預り・預け・定め・定り・書損じ・封じ・宿り・見せしめ等。

- 三 合成名詞には假名を送らず。

【例】枯草・塗板・冬著・荷造・受取・立消・白壁・早起等
●誤讀を生ずるものは假名を送る。
預り主・預け主・讀み書き等

◎代名詞

- 一 代名詞には總べて假名を送らず。

【例】我・汝・彼・是・夫・誰・孰・何・我等・彼等・此等等。
●「何れ」は「れ」を送る。

- 二 「が」「の」に接する時は「が」「の」を送る。

【例】我が國・其の物・此の人等。

◎數詞

次の數詞は假名を送る。

【例】一つ・二つ・五つ等。
●二十・三十・萬の「ち、ぢ、づ」は送らず。

◎動詞

- 一 動詞は總べて變化する所より假名を送る。

【例】行く・捨つ・落つ・見る・蹴る・案内す等。
●候の終止段、連體段の語尾は場合によりて送らず。
又、非ず・否すの「ら」は送らず。

- 二 轉來せるもの又は他の行に轉じたるものは元の語の語尾より送る。

【例】惜しむ・楽しむ 全うす・再びす 驚かす・動かす等。

- 三 延音・約音、兩種の動詞は延びたるも約りたるも共に其の語尾を送る。

【例】申さく・願はく・恐らく 善から・面白から・露けから等。
●「曰く」の「は」は送らず。

- 四 合成動詞は下の語の語尾のみを送る。

【例】受取る・差遣す・届出づ等。
●誤讀を生ずるものは送る。
折れ込む・折り込む等。

- 五 漢字を語の一部に當てたるものは其の他を送る。

【例】基づく・鞭うつ・晝がく・巢くう・赤らむ・連なる・横たはる等。

◎形容詞

- 一 く・しく・けく・なり・たり等の語尾は之を送る。
- 【例】善く・悪しく・寒けく・美麗なり・漠然たり等。
- 二 轉來せるものは元の語の語尾より送る。

【例】願はしく・歎かしく・痛ましく・羨ましく・甚だしく等。
●漢字を語の一部に當てたるものは其の他を送る。
如何はしく・果なく等。

◎副詞

- 一 本來の副詞にして二音のものは送らず、三音以上のものは最後の二音を送る。

【例一】豈・今・唯・皆・猶・復・扱(二音のもの)等。
●先づ・能く・若し・斯く等に限り一音を送る。

【例二】嘗て・既に・遂に・何ぞ・焉ぞ・凡そ・殆ど・況や・頗る・忽ち・蓋し・専ら・恰も・最も・甚だ・聊か・寧ろ・必ず・獨り(三音以上のもの)等。

- 二 轉來の副詞

(1) 動詞より轉じて「に」「て」に接するものは動詞の語尾より送る。
【例】妄りに・盛りに・頻りに等。
始めて・總べて・敢へて等。

(2) 名詞其の他の語より轉じて特別なるもの外は最後の二音を送る。
【例一】日に・誠に・巧に・朗に・健に・大に・怒に・互に等。

【例二】細かに・細やかに・恐らくは・大人しやかに等。

- 三 合成副詞の送假名は本來の語の法に従ふものとす。

【例】此の故に・是を以て等。
●「斯の如く」の「く」は送らず。

- 四 疊語の副詞は次の如く記すものとす。

(1) 同音を重ねたるもの。
【例】年々・日々・一々・近々等。
(2) 同訓を重ねたるもの。
【例】愈・益・抑・屢・各・つらく・かへすく等。

◎接續詞

- 一 假名を送らざるもの。
- 【例】又・亦・且・將・就中・加之等。
- 二 一音を送るもの。
- 【例】但し・若し・即ち・故に・或は・并に・而も等。
- 三 數音を送るもの。
- 【例】而して・然らば・若しくは等。

◎感動詞

感動詞は總べて假名を送らず。
【例】嗚呼

備考 ○本表は内閣官報局及び文部省國語調査會所定の送假名法に據り聊か私見を加へたるものなり○同一の語にして兩品詞に互るものは一方にのみ掲ぐることせり○本表は慣用及び實用を主として強ひて學理に拘泥せず○例語は簡明を主としたれば唯其の一端を擧ぐるに止む

大正三年十一月七日印刷
大正三年十一月二十日發行

定價金拾錢

不許複製

編者 明治書院編輯部

發行者 株式會社明治書院

東京市神田區錦町一丁目十番地

取締役社長 三樹一平

東京市本所區番場町四番地

印刷者 登井

發行所

東京市神田區錦町一丁目
(振替東京四九九一番)

株式會社明治書院

長電話本局二四三八番

出版印刷株式會社本所分工場

327
678

終

